

待降節(たいこうせつ)は、カトリック教会においてキリストの降誕を待ち望む期間のことで、欧米では アドベント (Advent)と呼ばれています。

アドベントという単語は「到来」を意味するラテン語 Adventus(アドベントウス)から来たもので「キリストの到来」のことです。待降節の期間には4回の主日(日曜日)があり、最初のアドベントを待降節第1主日と呼び、その後、第2、第3、第4と主日が続きます。

2024年は12月1日が待降節第1主日です。

アドベントには、ろうそくを4本用意し、第1主日に1本目のろうそくに火をともし、その後第2、第3、第4と週を追うごとに火をともしろうそくを増やしていくという習慣が古くからありました。その習慣を受け継いで、常緑樹の枝を丸くまとめ 装飾をつけ加えた「アドベントクランツ」(ドイツ語)または「アドベントリース」(英語)に、4本のろうそくを立てることが19世紀半ばにドイツで始まりました。

クランツのモミの枝は降誕の日(12月25日)を、4本のろうそくは待降節の4回の主日を意味しています。クランツ(冠)は称賛や崇敬を表し、王たる存在のイエスを象徴しています。